

日野川の源流と流域を守る会

会報

# しのがわ

第44号



日野川フォトコンテスト2023 一般部門

題名：水無月の流れ

撮影者：村川 香織

撮影地：日野郡日野町下菅

## ＝ 目 次 ＝

- 令和6年総会開催報告 ..... 2
- 〔寄稿〕流域元年！日野川流域で実践するプラネタリーヘルス ..... 3
- 日野川フォトコンテスト2023入賞作品紹介 ..... 4
- 日野川フォトコンテスト2024作品募集／藤原自然保護監視員の植物紹介 ..... 5
- 新講師紹介 ..... 6
- 森と水に親しむ活動の報告 ..... 7
- 令和6年イベント案内／会員募集 ..... 8

# 令和6年 総会開催報告

令和6年の総会を開催しましたので、概要を報告します。  
今年も会の活動に御理解、御協力をいただきますよう、よろしくお願ひします。

日 時：令和6年3月6日（金） 14：00～16：30 場 所：ヴィンステびえづ

○議 事 令和5年事業報告、収支決算及び監査報告  
令和6年事業計画、収支予算及び役員改選  
→いずれも、原案どおり承認されました。

○日野川フォトコンテスト2023入賞者表彰式 ※入賞作品を4ページに掲載しています

○講演会 演題：～流域元年～ 日野川流域で実践するプラネタリーヘルス  
講師：医師／tenrai株式会社 代表取締役 桐村里紗氏

## 令和5年収支決算

(単位:円)

収 入	2,283,695
支 出	1,551,261
残 額	732,434

## 令和6年収支予算

(単位:円)

区 分	前年予算額	本年予算額	増減
繰越金	397,690	732,434	334,744
会 費	877,000	886,000	9,000
補助金	800,000	1,000,000	200,000
その他	4	5	1
計	2,074,694	2,618,439	543,745

## 【支出】

(単位:円)

区 分	前年予算額	本年予算額	増減
会議費	45,000	100,000	55,000
事業費	870,000	890,000	20,000
広報費	200,000	200,000	0
助成金	300,000	300,000	0
事務費	250,000	210,000	▲40,000
予備費	409,694	918,439	508,745
計	2,079,694	2,618,439	543,745

## — 松村会長挨拶 —



松村順史会長

総会では、この度の役員改選で再任いただいた松村順史会長に御挨拶をいただきました。

会員の皆様には、会の活動へ御理解、御協力いただき感謝します。

昨年5月に新型コロナが5類に移行し、会の活動を通常の年並に少し戻すことができました。

まだコロナに打ち勝ったわけではないので、これからも感染動向に留意しつつ、今後の事業を進めていきたいと思ひます。

我々の周りでも、幾つか新しいことが起こりつつあります。

本日の講師であり、江府町に夫婦で移住された桐村さんは、「プラネタリーヘルス」という新しい概念を今、一生懸命、日本全国に発信をされています。桐村さんは医師でいらっしゃるのひ、人間の体と同じように、自然、この地を大事にすること、それから特に水の大事さということを強く訴えておられます。会員にもなっていておられますし、会としても応援していきたいと思ひます。

また、私が所属している鳥取県経済同友会では、関西学院大学の学生が江府町にフィールドワークに入り、よそ者・若者の視点でこの地域のSDGsを考えてもらう、というプログラムを進行しています。そもそも、SDGsの中には、自然の保全ということが入っているのひ、我々の会の追い風になればと考えています。来年度には成果を皆さんに御披露させていただければと思ひています。

引き続き、今後の会の活動に御理解、御協力をお願いします。

## 新役員の皆様

会 長	松村 順史 (鳥取県経済同友会西部地区顧問) 再任
副会長	前橋 知之 (一般社団法人境港水産振興協会会長) 再任
副会長	伊木 隆司 (米子市長) 再任
副会長	中村 英明 (日南町長) 再任
監 事	白石 祐治 (江府町長) 新任
監 事	福田 一哉 (日南町商工会会長) 再任

※順不同

# 流域元年！日野川流域で実践するプラネタリーヘルス

医師/tenrai株式会社代表取締役  
 (公財)日本ヘルスケア協会プラネタリーヘルスイニシアティブ代表  
 桐村 里紗



《桐村氏のプロフィール》  
 人と地球の健康“プラネタリーヘルス”を人口最少県人口最少町・鳥取県江府町で手掛ける。  
 近著に『腸と森の「土」を育てる～微生物が健康にする人と環境』（光文社新書）。また、NHK、民放の人気番組でも御活躍中。

日野川源流域の水の町・江府町に移住して、1年半になります。「消滅可能性自治体」のニュースに衝撃を受けながらも、今、この地から日本が世界に開かれるという確信が揺るぐことはありません。

医師になって20年が経ちますが、科学技術が発達しても尚、人が当たり前前に生きるだけで病気になり、地球が壊れていく状況は変わらないどころか、コロナ禍や戦争など、世界はますます混乱の渦中にあるように思われます。

人新世と呼ばれるこの時代、隕石の衝突並みのインパクトを持って、私たち人類が、生命を生み出す土・地質を致命的に破壊してしまったことで、地球のバランスが崩れてしまっているとされています。人類は、この地球上で生きるにあたって「大転換」が求められていますが、一体何をどう変えれば良いのかという答えが、この地にあると思うのです。

私は、この大山を精神的支柱とする日野川流域で、人と地球の健康「プラネタリーヘルス」を実現したいと思い、縁があって江府町に移住し、江府町の遊休施設「せせらぎ公園」を拠点に活動させていただいています。

「プラネタリーヘルス」というのは、「プラネット(地球)」の「ヘルス(健康)」という意味ですが、「地球」の中には、人も内包されています。人は地球の一部であり、全ては繋がりが合い、響き合っている全体性であるという考え方です。SDGsと同じ2015年に国際的に提案され、今、国連やWHOも、「プラネタリーヘルス」を推進しています。西洋発の新しい考え方とされていますが、元々、私たち日本人にとっては、古来から当たり前前に受け継がれてきた考え方だと思うのです。

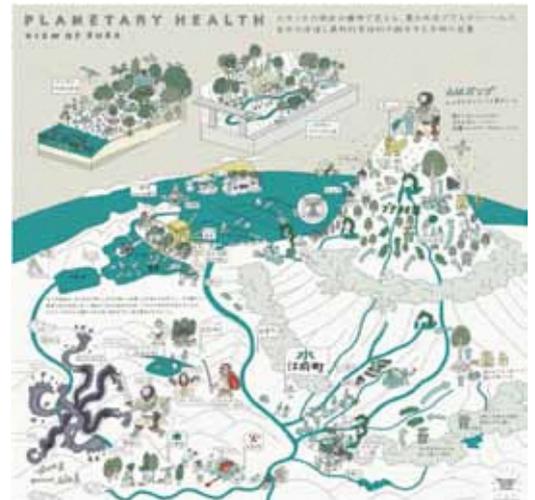


人は自然の一部であり、森羅万象に神性、仏性を見出してきた私たちの祖先は、水を蓄える奥山を霊山として畏怖しながら禁足地として自然環境を守り、日常的に自分たちが木材に使う木を植林して里山をつくり、奥山の水の恵みを頂く田んぼで米を育て、その米を醸して酒にし、豊穡の恵みに感謝し神に捧げてきました。里山も田んぼも、人が日々の営みの中で環境に関わることで、より生物多様性が高まり、豊かになっていくのです。これは、まさに、今、国際的に求められている「ネイチャーポジティブ」な生き方であり、こうした人の営みから、プラネタリーヘルスが実現していくのだと思います。元々、私たちの先人が当たり前前に行ってきた営みにこそ、答えがあるのではないのでしょうか。

さらに豊かな奥山の森が育んだ水は、海の底からも海底湧水として湧き出し、豊かな山の腐食物質と土中のミネラルが結合したキレートミネラルをたっぷり含む水が藻場が豊かにし、貝をぷっくり太らせ、海の生態系を豊かにします。実際、淀江の海では、今でも大量の海底湧水が湧いており、これでご飯を炊いたり、スープを作ると、海にありながら、山をいただいているような滋味深さがあります。

人と自然が響き合う未来の文明がこの地から興ることをイメージして、マップを作りました。素戔鳴(スサノオ)をモデルにしています。八岐大蛇の伝説は、暴れ川のことを表していたのではないかとされていますが、鉄を採掘するために山を切り崩しながらも、植林をして山の保水力を保ち、治水によって川をおさめることによって、稲田姫としての稲作を守り、安定的なエネルギー生産を実現したと考えられる素戔鳴。古代の自然科学者であった素戔鳴が、当時の最新科学技術を大陸から持ち込み、土着の民と大陸から流れ着く多様な人種が混ざり合うこの流域で人と自然が共存共栄する高度な文明をこの流域に築いたのだとしたら。

今、私たちは、素戔鳴に学びながら、自然の原理原則に対する洞察を踏まえて、最新の科学技術を自然との共存共栄に使い、この地に再び、人と自然が響き合う未来文明を築くことができるのではないのでしょうか。



# 日野川フォトコンテスト2023 入賞作品紹介

日野川の素晴らしさを広く伝え、恵まれた環境を次の世代に引き継いでいくため、流域の自然、山、森、里山の風景、生活文化などを対象とした写真作品のコンテストを行いました。

多くの応募作品の中から選ばれた一般部門、スマホ部門、それぞれの入賞作品を御紹介します。

## 一般部門

グランプリ「日野川の恵み」細田 眞徳



撮影者の  
ひとこと

日野川の豊かな自然環境があってこそ生息できる沢山の貴重な生き物達、実際に躍動する姿を見て感動しました。(撮影地：日野町根雨)

金賞「日野川旅情」藤原 博文



撮影者の  
ひとこと

黒坂発電所と日野川の風景がすばらしく思い何度も撮影に訪れました。(撮影地：日野町本郷)

銀賞「冬晴れの日南町」真砂 昇平



撮影者の  
ひとこと

雪がたくさん降りその翌日晴れ間見え川の石の上に積もる雪よどみには氷が張る日南町の冬です。(撮影地：日南町生山)

## スマホ部門

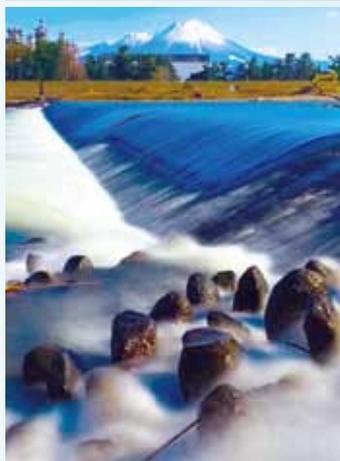
グランプリ「日野川の夜明け」井上 勝博



撮影者の  
ひとこと

波がなく穏やかな日野川河口は息を呑むような美しさです。是非沢山の人に日野川の美しさを知ってもらいたいです。(撮影地：日野川河口)

金賞「日野川堰と冠雪の大山」山里 幸司



撮影者の  
ひとこと

この日は空気が澄んでおり特に大山が綺麗に見えました。(撮影地：日野川車尾堰)

銀賞「秋夜の旧日野橋」永田 茂雄



撮影者の  
ひとこと

旧日野橋は、昭和4年から日野川周辺地域の生活を支えてきた歴史的な建造物。わたしも小さな頃から眺めてきた故郷の風景でもあります。建設から94年経った今も、人々の架け橋として大切な役割を果たしてくれている。でも年をとれば疲れることもありますよね。しずかな秋夜です。ちょっとだけ、ひと休みしてください。(撮影地：米子市車尾)

# 日野川フォトコンテスト2024 作品募集

日野川と日野川を取り巻く四季折々の美しい自然景観、流域に息づく人々の暮らしや伝統文化など、日野川の魅力を伝える写真を、一般とスマホ、2つの部門で募集しています。各部門それぞれに金賞、銀賞、銅賞を選出し、賞状と副賞を贈呈します。

## ■撮影対象■

日野川及び日野川流域の自然、里山の風景、流域の人々の生活文化など、日野川に関係のあるもの

※1人につき1部門1点の応募とします。



ひのりん



## ■応募締切■ 10月31日(木)

### 一般部門

応募作品：四つ切またはA4サイズ

応募方法：写真と、必要項目を明記した作品募集チラシの裏面の応募用紙を郵送または持参

### スマホ部門

応募作品：画像データ

応募方法：右上の2次元コードを読み取り、リンク先の「とっとり電子申請サービス」で必要項目を入力し画像データを添付し送信

#### ＜必要項目＞

- ①作品タイトル ②作品への思い ③撮影年月 ④撮影場所  
⑤撮影者氏名 ⑥住所 ⑦連絡先

## 藤原自然保護監視員の植物紹介

### ～地味だけどすごい ゲンノショウコ～



ゲンノショウコ (白色)

ゲンノショウコは山野の道端では普通に見られる多年生の植物です。茎は高さ30～50cmになり、よく分枝します。7～10月と長い期間咲いています。花の色も紅紫色から白色で、直径1～1.5cmです。東日本には白い花、西日本には紅紫色の花が多いと言われていたのですが、日野郡にも白い花が多く見られます。

種子が熟すと、右の写真のように5裂し、裂片は種子を1個ずつ巻き上げます。この形が神輿の屋根の野筋に似ているのでミコシグサ(神輿草)とも呼ばれているようです。



種子が熟し、果実が5裂したゲンノショウコ



ゲンノショウコはドクダミやセンブリとともに日本三大民間薬とも言われ、止瀉効果があり、様々な下痢に効果があると言われていています。むかし下痢で苦しんでいた人がこの煎じ薬を飲んだら直ぐに下痢が治った「現の証拠」、これがゲンノショウコの和名の由来だと言われていています。ネットで検索してみると、ゲンノショウコの薬品が色々と販売されています。我が家でも明治生まれの祖母がやんで煎じて飲んでいました。「お腹の調子が良くなるから飲んでみなさい」と言われて飲んだら、とても苦かったのを思い出します。「良薬は口に苦し」とはまさにこのことだったんですね。

興味のある方はゲンノショウコを探してみませんか？ただし、採取するときは有毒植物であるウマノアシガタやキツネノボタンなどと間違える可能性もあるので、十分注意して開花時に採取するのがお勧めです。



ゲンノショウコ (紅紫色)

## 新講師紹介

日野川の源流と流域を守る会に新たに加わっていただいた講師のお二人を紹介します。

さとう かんた  
佐藤 幹太 講師

皆様こんにちは、令和5年度から江府町の地域おこし協力隊としてパークレンジャーをしております、佐藤幹太と申します。

江府町には鏡ヶ成、大平原、毛無山系といった自然豊かな環境がありこれらは国立公園区域に指定されています。そして私の仕事はそんな江府町の国立公園区域の自然保護を行うことです。

私は大阪府出身で大学進学の際に野生生物、特に両生類爬虫類の生態について勉強したく岡山県の大学に進学し下宿していました。就職では仕事内容よりも暮らす場所を優先して自然豊かな場所にある民間企業で働いていたのですが、やはり自然に関わる仕事がしたいと思い江府町へ移住し、パークレンジャーとして活動することとなりました。

日野川流域に生息する両生類爬虫類の生息状況に関してまだ調べられていないことが沢山あります。これからも私自身で調べていき、その知見も踏まえて講師として会員の皆様に還元していきたいと思います。これからよろしくお願ひします！



すやま さとみ  
須山 里実 講師



昨年9月に日野川源流探訪にご一緒させてもらい、皆さんと源流の碑を目指して楽しい時間を過ごさせていただきました。

私は伯耆町（旧岸本町）、大山の麓で育ちました。

小さい頃から生き物が好きでカエルやトカゲを追いかけて、昆虫を求めて山にガサガサ分け入り、川に行っては小魚やエビ、カニを取って遊んでいました。そんな生き物たちが暮らす環境を大切にしたい、守っていききたいという思いで22歳から林業の世界に入りました。

「林業」というと山に重機をいれ、山を崩して、木を切ってというイメージが多いと思います。そういった一面だけを見れば環境を破壊しているというのも一理あります。ただ、山に囲まれた日本で人が暮らすためには、山を利用しなければ生きていけないのも事実です。

今、人にとっての木材・山の利用価値は大きく変わりつつあります。皆さんが山を知り、これからの山について一緒に考えていただければ嬉しいです。

これからよろしくお願ひいたします。

# 森と水に親しむ活動の報告

将来を担う子どもたちや流域住民の方々に体験活動を通して、日野川流域の森や水辺の自然環境、歴史文化などに対する理解を深めてもらうため、森や水に親しみ学ぶ活動をされている2つの団体の取組を支援しました。この活動をされた団体からの活動報告をいただきましたので紹介します。

## 【奥大山古道保存協議会】

～奥大山古道・木谷沢などの環境保全～ (10月6日、11月8日、9日)

奥大山古道保全協議会では江府町秋の恒例イベント、奥大山古道ウォークを開催しています。令和5年から協議会の会長が小椋隆治さんになりました。前会長・佐々木満さんの熱い志を引き継ぎ、後世へ伝えていきます。今回、日野川の源流と流域を守る会の補助金を使い古道の除草・倒木処理を行いました。おかげさまで20本以上の倒木を掃除することができました。



古道ウォークの一幕

ウォーク当日は曇りで、大山の南壁を望む鍵掛峠から後醍醐天皇伝説の宿場町である御机集落を通り下蚊屋集落まで約6kmをウォーキングしました。

ウォークの途中、御机集落で休憩し、地元野菜の販売等、地元の方との交流もありました。下蚊屋集落では鳥取県無形民俗文化財「下蚊屋荒神神楽」の観賞会を行い、盛り上がりました。今年は鳥取県立境港総合技術高等学校から救護に1名参加していただき、お客様のけが等の対策をしました。事前の環境整備のおかげもあり、無事全員完歩できました。

今年の参加者は27名と少なかったですが、手厚いガイドでしっかり楽しめたのではないのでしょうか。大山信仰・牛馬市や日本遺産のストーリーをPRするいい機会となりました。来年は参加者を100名に増やすため広報を頑張りたいと思います。



古道の環境を整備



下蚊屋荒神神楽

## 【日野川流域の自然と歴史を知る会】

～若松川流域と旧若松鉱山散策と聖滝・縁結びロード散策～ (10月14日)



ジンジソウ

私たち日野川流域の自然と歴史を知る会では、「森と水に親しむ活動」として、午前中は、日南町多里地区若松川渓流、若松滝、旧若松鉱山への、午後は菅沢地区の秋原川渓流、聖滝までのトレッキングと自然観察に加え、特に今回は日南町の歴史を彩る旧若松鉱山見学も計画しました。

多里地区の湯河には、広島県と県境を接する、岩樋山、道後山直下の日野川の源流部から流れ出る湯河川、若松川があり、これらの川には日南町でも随一の渓流や美しい滝があります。

まず多里地域振興センターで、日本の近代化産業遺産に選ばれた旧若松鉱山について、多里の鉱山を語り継ぐ会の方より説明を受け、県営水力発電所から渓流沿いを若松滝、旧若松鉱山を目指し、自然観察を行いながら歩きました。途中、アケボノソウ、ジンジソウ、フシグロセンノウ等のたくさんの草花に出会い、秋の自然を満喫しました。また日本の高度成長を支えた鉄の生産に必要な不可欠であった耐火材(クローム鉄鉱石)を製品化する日本でも有数の工場跡を見ることができました。



渓流に沿って散策



旧若松鉱山を見学

アメダス茶屋で、地域の食材を豊富に使ったランチを堪能した後は、菅沢地区の秋原で、古に、ニニギノミコトとコノハナサクヤ姫が滝の前で結婚式を挙げたといわれる聖滝を目指し、秋原川沿い(縁結びロード)で多くの淵、炭焼き窯跡などを散策しました。

おかげさまで、秋晴れの下、和やかな雰囲気の中で無事開催することができました。開催に、ご協力いただいた関係者の皆様、ありがとうございました。

これからも日野川流域の理解を深めるワクワクする現地学習の機会を作っていきたいと思います。 ※編集部注：旧若松鉱山は自由に立ち入りできませんのでご注意ください。

今年も日野川流域の森と水に親しむ活動を募集します。

申請締切：令和6年6月28日(金)

※詳しくは事務局にお問い合わせください。

# 令和6年イベント案内

令和6年の今後のイベント予定です。イベントに参加して、日野川とその流域の魅力にふれてみませんか。

<p><b>川海の繋がり体験</b></p>	<p>日野川一斉清掃に合わせて、河口付近の清掃を行うとともに自然観察会を行います。 日野川水系漁協さんのアユの生産場でアユの学習もあります。</p>	
<p><b>学ぼう！遊ぼう！みんなの日野川学校</b></p>	<p>日野川を学校に見立てて、子どもと大人と一緒に川遊びをします。 楽しく、昆虫・魚・植物について学びませんか。</p>	
<p><b>日野川支流の魅力発見ツアー</b></p>	<p>日野川の支流の魅力を見つけに、秋の鏡ヶ成に行きましょう。 野鳥、昆虫、両生類、爬虫類、植物を観察します。</p>	

## 日野川の源流と流域を守る会

# 会員 募集中!

当会の活動は会員の皆さんに支えられています。

「日野川を日本一美しい川」にするため、日野川の源流と流域を守る会の活動に参加しませんか？

当会の活動に興味をお持ちの方は、入会手続きや会費などについて、事務局までお気軽に御相談ください。

【お問い合わせ方法】

- ・Eメール・ファクシミリ  
常時受付・内容確認後に御連絡させていただきます。
- ・電話  
月～金曜日 8:30～17:15 (年末年始、祝日等除く)

## 日野川流域憲章

【前文】

私たちは悠久の時の流れの中で、多くの恵みをもたらしてくれた日野川、その流域のすばらしい自然・環境を守り、日野川の清流化に向けて活動します。

日野川はたくさんの動植物の生命を育み、たくさんの人たちの生活も支えてくれています。

また、日野川流域には伝統ある生活文化・芸術が育まれています。

私たちは日野川の歴史・自然を学び、よく理解して、より豊かできれいな日野川の流れを後世に残すために、みんなで力をあわせて活動します。

そのために、ここに「日野川流域憲章」をつくり、多くの人たちの参加・協力をよびかけます。

【日野川流域憲章の理念】

- ・日野川流域の自然・環境を守り、川と私たちとのすばらしい共存に努めます。
- ・日野川のきれいで豊かな流れが、いつまでも続くように美しい緑の森を守り、育てるように努めます。
- ・日野川流域の交流・連携をすすめます。
- ・日野川流域の歴史・生活文化を学び、その知識を次世代に引き継ぐように努めます。
- ・日野川流域に培われてきた、さまざまな価値ある魅力を大切にして、継続的な地域の発展に努めます。
- ・日野川流域を愛する人たちの輪が広がるように努めます。

平成20年8月23日

日野川流域憲章制定実行委員会